

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600500
法人名	有限会社 ハーティーマインドなぎの
事業所名	グループホーム ハーティーマインドなぎの
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3379番地の1 (電話) 0947-72-7778

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年6月28日	評価確定日	平成19年8月13日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成) 16年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,340 円	

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川口医院(内科・耳鼻咽喉科・循環器科) ひらつか歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の集落から離れた場所に位置する事業所で、2箇所の有料老人ホームに併設されている。周囲は一面の水田に囲まれ、小川のせせらぎが聞こえる美しい自然の中にある。事業所は平屋建ての建物で、玄関周りは季節の花々で飾られ和やかな雰囲気である。利用者主体のサービス提供を、管理者や職員が一体となって事業所独自の理念「安全・安心・安らぎ」のある生活を実現できるように誠意を持ってサポートするよう職員全員が心がけ実践している。地域との交流が厳しい立地条件にありながら、積極的に情報収集し、地域行事や活動に参加している。利用者の希望や要望を尊重し、好きなことや得意なことを活かして生き生きとした生活を送ってほしいという取り組みが随所に伺える。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題をふまえて、運営推進会議の実施や地域との交流、定期的なホーム便りの発行等、具体的な改善がみられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、職員会議の開催や人権教育等、権利擁護に関する制度の理解等、新たな課題の認識がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で前回の外部評価の報告を行い、委員の情報や意見を参考にして地域との交流に取り組む等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。会議録も作成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の訪問時には積極的に苦情や要望を聴くように努め、その内容及び取り組みは記録している。事業所内の苦情受付の窓口は、玄関に明示している。苦情受付窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	月に1~2回、老人会の廃品回収、地域の養護学校や保育園の運動会・お遊戯会など、地域活動や行事の情報を集めて、積極的に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・安全・やすらぎ」という事業所独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスを含んだ理念ではない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念を全職員で唱和し、理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。職員一人ひとりに共有し、しっかり認識している。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1~2回、老人会の廃品回収、地域の養護学校や保育園の運動会・お遊戯会など、地域活動や行事の情報を集めて、積極的に参加している。参加した行事は「行事企画書」に記録している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、職員会議の開催や人権教育等、権利擁護に関する制度の理解等、新たな課題の認識がある。前回評価での改善課題をふまえて、運営推進会議の実施や地域との交流、定期的なホーム便りの発行等、具体的な改善がみられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で前回の外部評価の報告を行い、委員の情報や意見を参考にして地域との交流に取り組む等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。会議録も作成している。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政主催の行事については情報交換や打ち合わせを行っているが、それ以外での関わりは少ない。</p>	○	<p>今後は行政との連携をとり、身近な情報を取り入れながら、介護サービスの質の向上に取り組んでほしい。</p>
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設長と管理者は地域、福祉権利擁護事業・成年後見制度の学習を行い資料は常備している。しかし、職員への内部研修等は行っていない。</p>	○	<p>全職員が、制度に関して必要に応じて家族等に説明ができるように、内部研修等を行い、知識の習得に努めてほしい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時には必ず声かけを行い、近況報告を行っている。訪問が少ない家族や必要時には電話や手紙で報告している。3ヶ月毎にホーム便りを発行し、家族に送付している。</p>	○	<p>現在の金銭管理は、金銭の収支や使途がわかりにくい面があるため、家族等が見ても明確な金銭出納簿を作成してほしい。</p>
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時には積極的に苦情や要望を聴くように努め、その内容及び取り組みは記録している。事業所内の苦情受付の窓口は、玄関に明示している。</p>	○	<p>苦情受付窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。</p>
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、併設施設間における異動は行っていない。施設長・管理者が職員の相談をその都度受け、離職を最小限度に抑えるよう努めている。</p>		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	施設長や管理者は職員の募集・採用にあたっては、本人の熱意、事業所の特性を理解しているか、高齢者や認知症・介護に関する知識や経験などを重視している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は人権に関する外部研修に参加している。しかし、全職員が外部研修や勉強会等に参加する等の取り組みは行われていない。	○	全職員が共有できるよう、内部研修や勉強会を開催するなどの取り組みが期待される。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の実践者研修や救急講座などの研修を順次受けている。外部研修に参加した職員が個別に口頭で報告するなどの取り組みを行っているが、内部研修計画の実施は徹底されていない。	○	外部研修の内容を全職員が共有できるよう、内部研修を徹底し、実施状況を確実に記録してほしい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流の機会が薄い。	○	運営者は全職員が同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくよう取り組んでほしい。
【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の有料老人ホームからの利用者が多い。急な環境変化に戸惑わないよう、事業所と老人ホームを行き来しながら、徐々に事業所に馴染めるように配慮している。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や掃除等を共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。押し花作成・絵画・習字等、本人の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び支えあう関係を構築している。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日、利用者の要望や意見を聴く機会を持ち、出された意見や希望を記録して、一人ひとりの意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人の意見は日常的に聴き取りをし、家族には介護計画作成担当者会議に出席してもらうよう要請している。出席できない場合は電話や訪問時に聴取している。それぞれの意見やアイデアを反映している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。また、状態に変化があった場合は、家族にその旨を伝え、介護計画の内容を説明し、臨機応変に対応している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>早期退院ができるように病院との連携を密にしたり、医療処置を受けながら、利用者がこれまでの生活が継続できるような支援をしている。</p>		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医での受診を支援している。状態の変化や治療が変わった場合や病院からの説明がある時は家族に連絡し、一緒に聴くようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、家族・かかりつけ医等と話し合い、職員を含めて全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者等は常に職員に対して、利用者は人生の先輩であり、一人ひとりの尊厳を大切に接するように、と確認している。また、排泄の失敗時には他の利用者に分からないよう目立たないようにし、本人の羞恥心等に適切な対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、散歩・描画・園芸等、一人ひとりのペースや希望を大切にして支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に配膳や片付けを行い、また職員は利用者と同じ食事を一緒に食べ、食事を楽しんでいる。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。また、入浴を拒否する利用者には、声かけやタイミングを見計らい、入浴ができるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>絵を描くことや習字、園芸等、利用者の生活歴や趣味等を活かし、役割や楽しみごとを支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日、利用者の状態や希望にそって、買い物や事業所内での散歩を支援している。また、月1回は花を見に出かけたり、神社を参拝する等、多様に支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関を施錠していない。全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、玄関に設置したセンサーだけでなく、事業所職員及び法人全体で見守り等を行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策に関して、消防計画書がある。年1回、消防署と連携して避難訓練を実施し、また、年4～6回、隣接の老人ホームと連携して、消火・通報訓練を実施している。</p>	○	<p>今後はいざという時のために、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備等は、事業所独自で準備してほしい。</p>

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量は、月毎の一覧表を作成し、利用者一人ひとりの摂取量を記録している。献立は、利用者の意見を反映させながら職員が作成し、栄養士からチェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間に利用者作成の絵を飾る等、家庭的雰囲気配慮している。天窗を設置して自然採光を取り入れ、明るさや眩しさは照明やカーテン等で調整を行っている。時折、職員の利用者に対する声かけが大きかった。</p>	○	<p>利用者の状態等に合わせて、声かけの大きさなど、利用者に対する対応を職員間で検討してほしい。</p>
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者一人ひとりの馴染みの物が持ち込まれている。また、家族の写真や利用者自身の趣味の絵画や習字などの作品が飾られ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。